

坂城町内遺跡発掘調査報告書2007

—平成19年度試掘・立会い調査報告書—

2008.3

坂城町教育委員会

坂城町内遺跡発掘調査報告書2007

—平成19年度試掘・立会い調査報告書—

2008.3

坂城町教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成19年度の町内遺跡の試掘調査及び立会い調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫の補助金及び町費にて対応した。
- 3 調査の体制
担 当 者 助川 朋広、時信 武史（坂城町教育委員会学芸員）
協 力 者 朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、田中 浩江、萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 4 事務局の構成
教 育 長 柳澤 哲（～平成19年5月31日）
教 育 長 長谷川臣（平成19年6月1日～）
教育文化課長 西沢 悦子
文化財係長 助川 朋広（前出）
文化財係 時信 武史（前出）
朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、田中 浩江、千野 美樹、
中沢あつみ、萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は助川・時信が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（ ）内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。
- 3 報告書抄録に記載された北緯・東経の座標値については、平成14年4月1日から施行された測量法改正に伴う、世界測地系に基づいた数値を記載した。

目 次

例 言

凡 例

第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第 1 節 地理的環境	1
第 2 節 歴史的環境	1
第 II 章 試掘調査の結果	6
1 込山 A 遺跡 1	6
2 出浦遺跡 3	8
3 上五明条里水田址 18	10
4 出浦遺跡 4	12
5 保地遺跡 3	14
6 開畝遺跡 5	16
7 込山遺跡群 2	18
第 III 章 立会い調査の結果	21
報告書抄録	

第I章 坂城町の遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接触点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は3、4ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の土ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が注目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡Ⅱ（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢文群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、

全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡Ⅱ（1-8）が注目される。奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊饒堂遺跡（20）、開飲遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山麿寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法麿寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡がある。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区の開飲製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林1999）。開飲製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄が址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史上に位置づけられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1797）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平文群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献（五十音順・敬称略）

- 坂城町教育委員会 1978『開飲製鉄遺跡—第1次調査報告』 1979『開飲製鉄遺跡—第2次調査報告』 1993『宮上遺跡Ⅲ』 1995『東義遺跡』 1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』 1996『寺浦遺跡Ⅱ』 2000『開飲遺跡Ⅲ』 2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 2002『保地遺跡Ⅱ』
- 岡 孝一 1966『長野県埴科郡坂城遺跡発掘調査概報』『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森嶋 隆ほか 1981『坂城町史』中巻 歴史編（一）
- 柳沢 亮 1998『第5巻 開飲遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』（財）長野県埋蔵文化財センター
- 若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』第11章 観音平経塚『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』（財）長野県埋蔵文化財センター



試掘調査位置図 (1 : 25,000)

第二章 試掘調査の結果

1 こみやまえいせい 込山A遺跡 1

所在地 坂城町大字坂城字水上

6184

事業主体 宮沢 哲男

事業名 賃貸住宅建設

調査期間 平成19年4月16日

面積 271.07㎡ (33㎡)

担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

込山A遺跡は坂城町大字坂城の日名沢川によって形成された扇状地の扇端部付近に位置する集落址で、込山遺跡群に総括される遺跡である。込山遺跡群は坂城町坂城の中心市街地付近に所在し、込山A遺跡～込山E遺跡まで命名されている。「坂城町遺跡分布図」によると込山遺跡群は、縄文時代～平安時代の集落址とされており、以前坂城駅拡張の際、縄文時代晩期の遮光器土偶が採集されるなど、当該期の集落の存在も予想される。

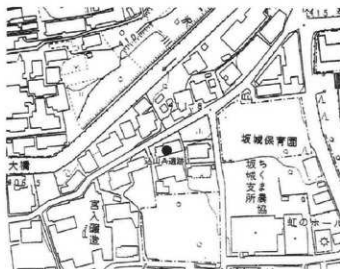
また、本遺跡群内には現在の坂城小学校周辺に古代寺院である込山庵寺が所在し、古代の集落址といった本遺跡群の性格だけではなく、古代寺院といった宗教的な様相をあわせもつ重要な遺跡群である。

今回、宮沢哲男氏による賃貸住宅建設事業が計画され、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、南西方向に流下する日名沢川左岸の扇状地上に位置している。試掘トレンチを1箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、地表下約0.5mにて地山



試掘調査位置図 (1:2500)



トレンチ掘削状況 (東より)



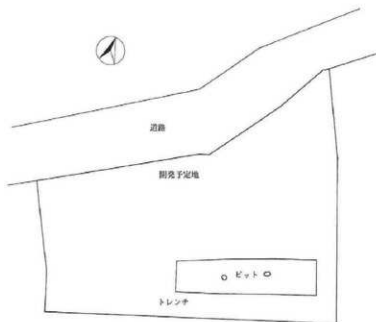
トレンチ検出状況 (東より)

の砂礫層を検出し、この面を掘り込み面とする土坑が2基確認された。時期などは不明であるが、トレンチの掘削中に縄文土器片が数点出土した。

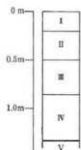
今回の試掘調査によって検出された遺構は地中のやや深い場所に存在していることや、建設予定の住宅が平屋建てであることから、遺構に影響の無いよう慎重に工事を行うこととして調査を終了した。



トレンチ検出状況（北より）



試掘トレンチ設定図（1：300）



- I層 表土層、旧住宅解体時の瓦片層。
- II層 暗褐色土（10YR3/3）砂礫層、粘土粒、土器片を含む。
- III層 黄褐色土（10YR5/6）砂礫層、道構雑草層、地山層。
- IV層 上記黄褐色土（10YR5/6）砂礫層、地山層。
- V層 褐色土（10YR4/6）砂礫層、地山層。

基本層序模式図

2 いでうら いせき 出浦遺跡 3

所在地 坂城町大字上平字出浦286-1 他
事業主体 三田 貞子
事業名 集合住宅建設
調査期間 平成19年5月22日
面積 1,653㎡ (64㎡)
担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

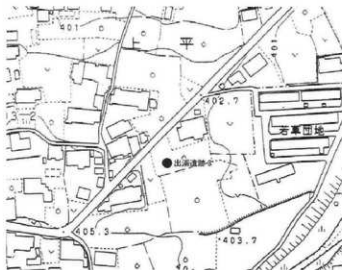
出浦遺跡は、坂城町の千曲川左岸である村上地区の出浦沢川によって形成された遺跡とされ、「坂城町遺跡分布図」によると、縄文時代～平安時代にかけての集落址とされている。本遺跡内では、平成17・18年度に試掘調査が行われたが、遺構・遺物は確認されなかった。

今回、三田貞子氏による集合住宅建設事業が計画され、遺跡の有無を確認するため試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、北東方向に流下する出浦沢川左岸の微高地上に位置している。試掘トレンチは2箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物の検出はなく、地表下約0.4mにて地山の砂礫層を検出するにいった。



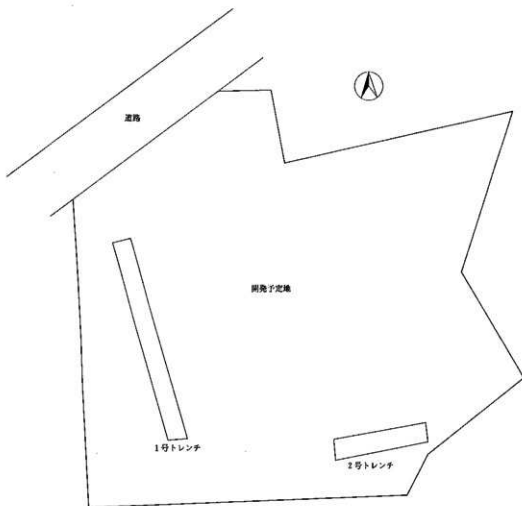
試掘調査位置図 (1:2500)



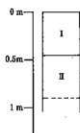
1号トレンチ検出状況 (南より)



2号トレンチ検出状況 (東より)



試掘トレンチ設定図 (1 : 400)



- I層 黒褐色土 (10YR2/3) 砂礫土、細粒作層。
- II層 濃い黄褐色土 (10YR5/3) 砂礫層、地山角。

基本層序模式図

3 かみごりょうじょうりすいでんし 上五明条里水田址18

所在地 坂城町大字上五明字塚田578他
事業主体 坂城町住民環境課
事業名 消防団拠点施設整備事業
調査期間 平成19年10月1日～
平成19年10月2日
面積 150㎡ (42㎡)
担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は、坂城町の千曲川左岸の網掛、上五明、上平に所在する千曲川沖積地に所在する遺跡で、「坂城町遺跡分布図」によると平安時代～中世にかけての条里水田址に位置づけられている。しかし、近年の試掘調査及び発掘調査によって、上五明地区、上平地区には古代の集落址も検出され、生産遺跡といった性格以外に集落址も存在している事が判明している。

今回、本遺跡内において坂城町住民環境課による消防団詰所の建設事業が計画されたことから、開発対象地内の遺跡の様相を確認するために試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の調査地点は、平成17年に試掘調査を実施した場所から南方約80mのところである。トレンチを設定して掘削を行ったが、数層の水田層が確認された後に、地表下約1.7mのところ千曲川の氾濫による堆積と思しき砂礫層を確認した。土層断面の観察や、遺物が出土しなかったことから、当該地点には遺跡は存在していないものと判断した。



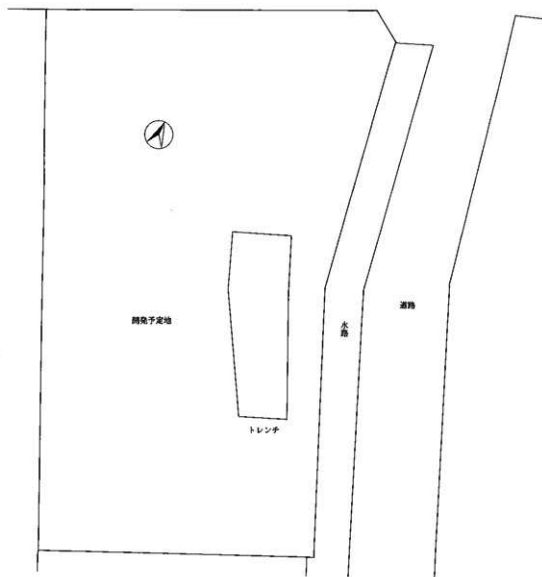
試掘調査位置図 (1 : 2500)



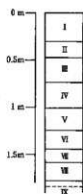
トレンチ検出状況 (北より)



トレンチ検出状況 (東より)



試掘トレンチ設定図 (1 : 250)



- I層 黒褐色土 (10YR3/3) 粘質土、耕作層。
- II層 にみい黄褐色土 (10YR5/4) シルト質、水田跡乾層。
- III層 にみい黄褐色土 (10YR5/3) シルト質、水田層。
- IV層 黄褐色土 (10YR5/6) シルト質、水田跡乾層。
- V層 にみい黄褐色土 (10YR5/4) 砂礫層、洪水堆積層。
- VI層 にみい黄褐色土 (10YR4/3) シルト質、水田層。
- VII層 褐色土 (10YR4/6) シルト質、水田跡乾層。
- VIII層 褐色土 (10YR4/4) シルト質、旧表土層。
- IX層 褐色土 (10YR4/6) 砂礫層、洪水堆積層。

基本層序模式図

4 いでうらいせき 出浦遺跡4

所在地 板城町大字上平字出浦296
事業主体 小出 尚則
事業名 集合住宅建設
調査期間 平成19年11月5日～
平成19年11月6日
面積 638㎡ (72㎡)
担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

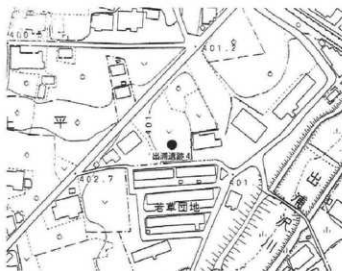
出浦遺跡は、板城町の千曲川左岸である村上地区の出浦沢川によって形成された遺跡とされ、「板城町遺跡分布図」によると、縄文時代～平安時代にかけての集落址とされている。本遺跡内では、平成17・18・19年度に試掘調査が行われたが、遺構・遺物は確認されなかった。

今回、小出尚則氏による集合住宅建設事業が計画され、遺跡の有無を確認するため試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、北東方向に流下する出浦沢川左岸の微高地上に位置している。試掘トレンチを1箇所設定し、遺構の有無を確認した。

トレンチを地表面から約2m掘り下げたが、断続的に河川によって堆積したと思しき砂礫層が幾重にも検出され、遺構・遺物の検出にはいたらなかった。



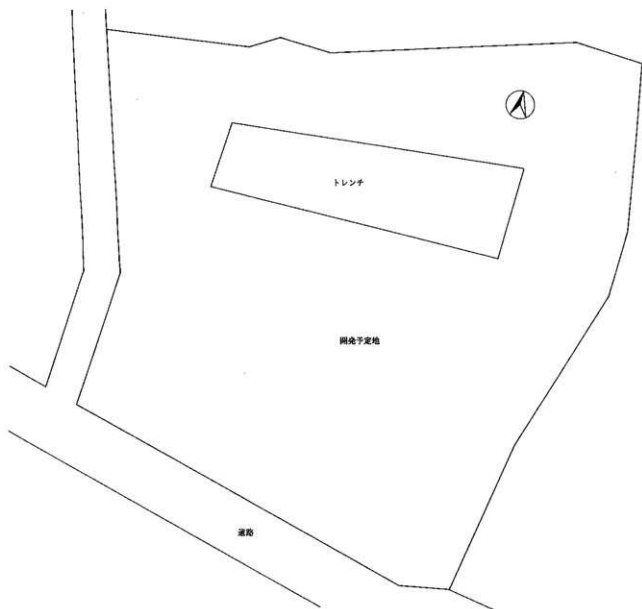
試掘調査位置図 (1 : 2500)



トレンチ検出状況 (東より)



トレンチ検出状況 (南より)



試掘トレンチ設定図 (1 : 200)



- I層 黄褐色土 (10YR5/6) 凝結作礫。
- II層 褐色土 (10YR4/4) 砂礫層。
- III層 細かい黄褐色土 (10YR5/4) 砂礫層。

基本層序模式図

5 ほろいせき 保地遺跡3

所在地 坂城町大字南条字保地
2394-1ほか
事業主体 坂城町建設課
事業名 道路改良事業
調査期間 平成19年12月12日～
平成19年12月13日
面積 4,320㎡ (108㎡)
担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

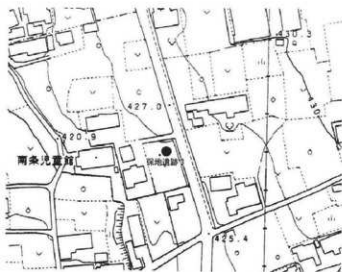
保地遺跡は、坂城町大字南条に所在し、谷川によって形成された扇状地上に立地している。保地遺跡は昭和40年と平成11年度に発掘調査が実施され、中でも平成11年度に実施された本調査では、縄文時代後期に属する墓址から遺存状態の良い良好な人骨が数多く出土するなど、町内でも貴重な資料が得られている。

今回、坂城町建設課よりA01号線道路改良事業が計画されたため、遺跡が破壊される恐れが生じた。そのため、試掘調査を実施して遺跡の状態を確認することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、西方向に流下する谷川左岸の扇状地上に位置している。試掘トレンチを1箇所設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、遺構・遺物の検出はなく、地表下約0.6mにて地山の黄褐色土層を検出するにいった。



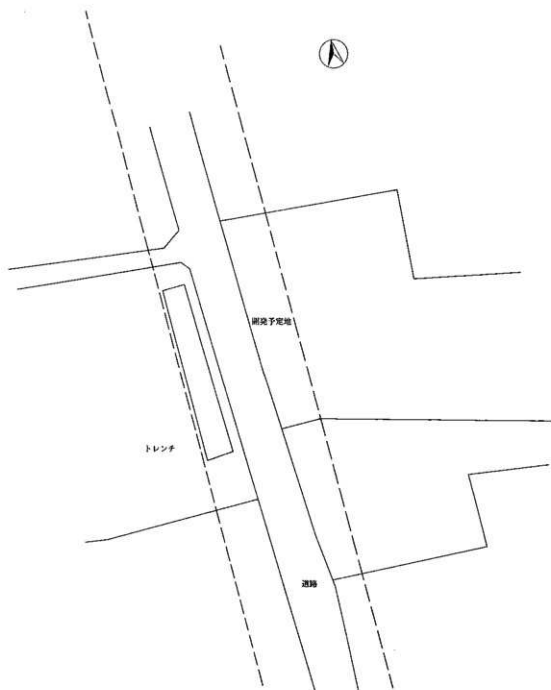
試掘調査位置図 (1:2500)



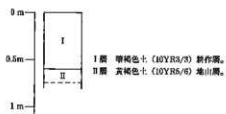
トレンチ掘削状況 (東より)



トレンチ検出状況 (北より)



試掘トレンチ設定図 (1 : 500)



基本層序模式図

6 かいぜいせき 開敵遺跡 5

所在地 坂城町大字中之条2300-1他
事業主体 坂城町教育委員会
事業名 給食センター建設
調査期間 平成20年1月21日～
平成20年1月22日～
面積 1,293㎡ (41㎡)
担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

開敵遺跡は御堂川によって形成された扇状地上の扇中央部に立地する。遺跡内には県内初の製鉄遺跡の学術調査例として有名な開敵製鉄遺跡がある。また、同遺跡内では平成11年度に店舗建設に伴って、平成18年度には町営住宅建設に伴ってそれぞれ発掘調査が実施され、古墳時代から平安時代の集落址が検出された（開敵遺跡Ⅲ・Ⅳ）。

今回、坂城町教育委員会が給食センターの建設を計画し、遺跡が破壊される恐れが生じたため、試掘調査を実施して、遺構・遺物の有無を確認することとなった。開発対象地は開敵製鉄遺跡の北西約100mに位置している。

調査の成果

今回の調査地点は、平成18年に発掘調査を実施した場所から北東約180mのところである。トレンチを設定して掘削を行ったところ、盛土層や水田層の下から付近を流れる御堂川の氾濫によると思われる堆積土が検出され、さらに下から地山層が検出された。しかし、遺構・遺物は確認されなかった。このことから、当該地点には遺跡は存在していないものと判断した。



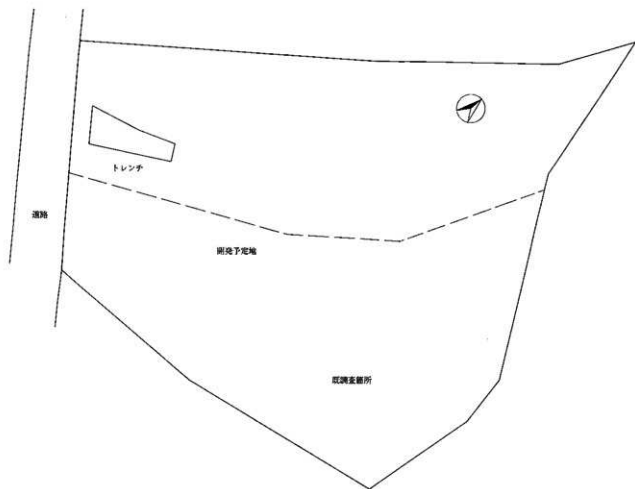
試掘調査位置図（1：2500）



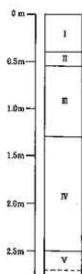
調査場所（南西より）



トレンチ検出状況（南西より）



試掘トレンチ設定図 (1 : 500)



- I層 濃い黄褐色土 (10YR4/3) 砂石含む、盛土層。
- II層 明黄褐色土 (10YR6/6)、水田層。
- III層 明褐色土 (10YR3/3) 炭屑などを含む、盛土層。
- IV層 暗褐色土 (10YR3/4) 礫を多く含む、自然堆積層。
- V層 明黄褐色土 (10YR6/6) 粘質土、地山層。

基本層序模式図

7 こみやまいせきくん 込山遺跡群 2

所在地 坂城町大字坂城字辻6022-1他
事業主体 株式会社カヤマ
事業名 駐車場造成
調査期間 平成20年1月28日～
平成20年1月29日
面積 713㎡ (88㎡)
担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

込山遺跡群は込山A～E遺跡等で構成されている。同遺跡群内には9世紀初頭の寺院址とされる込山廃寺があり、昭和28年に坂城小学校の校庭を拡張した際に礎石や古瓦が出土した。

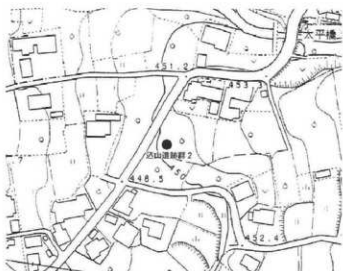
込山B遺跡では平成11年度と13年度に町営住宅の建設に伴って発掘調査が実施された。平成11年度の調査では、弥生時代中期の住居址や土器が確認されたほか、奈良・平安時代の住居址が検出され、平成13年度の調査では鉸具が出土している。

込山C遺跡では昭和36年に縄文時代中期の土器を伴う配石遺構が検出されたことが報告されている。坂城保育園建設に伴い平成12年度に実施された調査では、町内では初出となった縄文時代前期の竪穴住居址が検出されたほか、奈良・平安時代の竪穴住居址が検出されている。

また、鉄の展示館建設に伴って平成13年度に実施された込山C遺跡Ⅱの調査では、弥生時代後期や古墳時代中期の竪穴住居址が検出されている。

込山D遺跡では平成17年度に㈨八十二銀行店舗建設に伴って発掘調査が行われ、弥生～奈良・平安時代の集落址が確認された。

今回、株式会社カヤマによる駐車場造成事業が計画され、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施することとなった。



試掘調査位置図 (1 : 2500)



掘削状況 (東より)



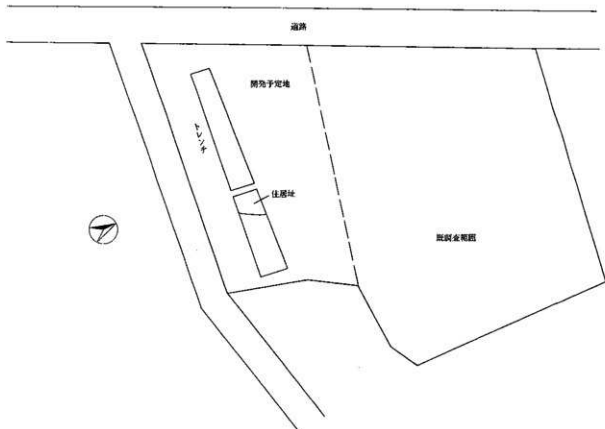
トレンチ検出状況 (北東より)

調査の成果

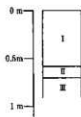
今回の計画地は、南西方向に開けた緩やかな斜面の中央付近に位置している。東西方向に試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、地表下約0.7mで平安時代の住居址1棟を確認した。また、平安時代末～中世の土器が数点出土したことから、付近に当該期の遺構が存在する可能性がある。

試掘調査の結果を踏まえて事業主と再協議を行い、遺跡を盛土保存することとして調査を終了した。

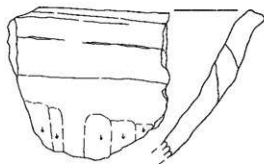
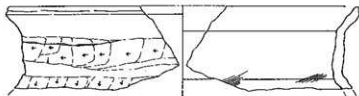


試掘トレンチ設定図 (1 : 500)



- I層 濃い黄褐色土 (10YR5/4) 粘質腐、礫・焼土粒・炭化粒を含む。耕作層。
- II層 褐色土 (10YR4/4) 粘質腐、礫・焼土粒を含む。古い耕作層。
- III層 黄褐色土 (10YR5/6) 粘粘質腐、礫を多く含む。地山礫。

基本層序模式図



須惠器

内面黑色处理

0 1:20 10cm

达山遺跡群 2 出土遺物

第三章 立会い調査の結果

No.	遺跡名	開発主体者	所在地	開発事業名	開発面積 (㎡)	調査期間
1	込山遺跡群	上田水道管理事務所	坂城字土井の入	水道管敷設	94.3	H19年 5月14日～ H19年 8月10日
2	中之条遺跡群	力石化工株式会社	坂城字大反田	工場建設	423	H19年 7月17日～ H19年10月31日
3	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	819	H19年 8月 6日～ H20年 3月14日
4	出浦遺跡	株式会社竹内製作所	大字上平字出浦	駐車場造成	314	H19年10月 1日～ H19年10月30日
5	中之条遺跡群	千曲建設事務所	坂城字四ツ屋	河川改修	360	H19年10月 1日～ H20年 6月30日
6	南条遺跡群	千曲建設事務所	南条字北押出	河川改修	180	H19年10月 1日～ H20年 1月31日
7	中之条遺跡群	坂城町建設課	中之条	下水道管敷設	830	H19年10月 1日～ H20年 3月31日
8	開畝遺跡	坂城町建設課	中之条	下水道管敷設	830	H19年10月 2日～ H20年 3月28日
9	四ツ屋遺跡群	坂城町建設課	坂城字四ツ屋	下水道管敷設	830	H19年10月 3日～ H20年 3月28日
10	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	449	H19年10月 9日～ H20年 3月28日
11	開畝遺跡	上田水道管理事務所	中之条	水道管敷設	105	H19年10月26日～ H19年12月21日
12	島遺跡	千曲建設事務所	上平	道路改良	700	H19年12月 3日～ H20年 4月28日
13	金井西遺跡群	上田水道管理事務所	南条	水道管敷設	7.8	H19年12月 3日～ H19年12月21日
14	田町遺跡群	坂城町建設課	坂城字田町	町道新設	2,430	H19年12月20日～ H21年 3月31日
15	込山・口名沢遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	水道管敷設	44.5	H19年12月17日～ H20年 3月14日
16	南条遺跡群	上田水道管理事務所	南条	水道管敷設	34.4	H19年12月17日～ H20年 3月 7日
17	上五明条里水田址 出浦遺跡	坂城町産業振興課	上平	農道整備	10	H20年 3月 1日～ H20年 3月31日



立会い調査位置図 (1 : 25,000)



開竅遺跡

中之条遺跡群



田町遺跡群

立会い調査の写真

報告書抄録

ふりがな	さかきちやうないいせきはっつちやうさほうこくしょ
書名	坂城町内遺跡発掘調査報告書 2007
副書名	平成19年度試掘・立会い調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第33集
編著者名	助川 朋広・時信 武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2008年3月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
込山A遺跡1	坂城町大字坂城	20521		36°27'56"	138°10'56"	2007年4月16日	33	集合住宅建設
出浦遺跡3	坂城町大字上平	20521		36°26'57"	138°9'51"	2007年5月22日	64	集合住宅建設
上五明条 里水田址18	坂城町大字上五明	20521		36°27'14"	138°10'10"	2007年10月1日 2007年10月2日	42	消防団拠点施設整備
出浦遺跡4	坂城町大字上平	20521		36°27'00"	138°9'55"	2007年11月5日 2007年11月6日	72	集合住宅建設
保地遺跡3	坂城町大字南条	20521		36°26'12"	138°11'41"	2007年12月12日 2007年12月13日	108	町道拡幅
開飲遺跡5	坂城町大字中之条	20521		36°27'04"	138°11'58"	2008年1月21日 2008年1月22日	41	給食センター建設
込山遺跡群2	坂城町大字坂城	20521		36°28'05"	138°11'21"	2008年1月28日 2008年1月29日	88	駐車場造成

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
込山A遺跡1	集落址	縄文～平安	土坑	縄文土器	
出浦遺跡3	集落址	縄文～平安	なし	なし	
上五明条 里水田址18	水田址	平安～近世	なし	なし	
出浦遺跡4	集落址	縄文～平安	なし	なし	
保地遺跡3	集落址	縄文～平安	なし	なし	
開飲遺跡5	集落址	弥生～平安	なし	なし	
込山遺跡群2	集落址	縄文～平安	堅穴住居址	土師器・須恵器	

坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開飲製鉄遺跡—第1次調査報告書』	1977
	『開飲製鉄遺跡—第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』（概報）	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立金い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戌久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開飲遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊饒堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集	『込山遺跡群 込山C遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2006
第28集	『込山遺跡群 込山D遺跡』	2007
第29集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集	『南条遺跡群 青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2007
第31集	『開飲遺跡Ⅳ』	2008
第32集	『町横尾遺跡Ⅱ』	2008
第33集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2007』（本書）	2008

坂城町埋蔵文化財調査報告書第33集

坂城町町内遺跡発掘調査報告書2007

発行日	2008年3月28日
編集者	坂城町教育委員会 〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268 (82) 1109
印刷者	信毎書籍印刷株式会社 〒381-0037 長野県長野市西和田1丁目30番3号 TEL 026 (243) 2105

